

「学生と地域で考えるまちづくり」の活動
 ～和やかな会議&地域をつなぐ小冊子～



まちづくりへの意見が飛び交いました

幌北地区には、学生と地域の方々が互いに協力しながら活動している「学生と地域で考えるまちづくり会」があります。月に一度、会の活動内容などを話し合うために行われている定例会議を取材しました。

この会議について、幌北連合町内会会長の永野拓也さんは「自由に意見が言える会議ですね。学生が参加するようになって、地域に活気が出てきました」と学生が参加する効果を語ります。学生の印象も、ごみ捨てのルールを守らないなど悪いイメージで言われますが、

この会に参加する学生はみんなまじめで、見直したとのことでした。

会議を進行していた代表の平野あゆみさんは「学生の一方的な考えだけでなく、地域の思いや、地域ならではの話が聞けるととても楽しい会議です」と笑顔で話します。

一時間あまりの会議でしたが、互いに交流を深めながら、まちづくりを考える大切な場となりました。（道上悟至）



道上記者（左）

みなさんは「ほらほ子（写真）をご存知ですか。これは「学生と地域で考えるまちづくり会」が幌北連合町内会と一緒に作っているもので、地域を再発見してもらおうと、色々な角度から地域



の魅力を紹介しています。最後の取材は、この編集作業におじゃましました。この日は「幌北の四季」がテーマということで、イベントの記事や写真を、一ページずついねいに編集していました。

幌北連合町内会の梶浦茂男さんは「学生が取材に行くとき、そこで地域との結び付きができますよね。そういう意味では、まちづくりに参加するいきつけかなと思います」と冊子作りの持つ意味を話します。「学生には、若さをもらえて感謝していますよ」とほほ笑む梶浦さんが印象的でした。（望月雄太）



望月記者（右）



編集作業にも自然と力が入ります

《学生と地域の「環」》

この取材を通して感じたことは、まちを盛り上げるために協力し合う学生と地域のきずなの強さです。ここで生まれる人と人との「環」こそが、まちづくりに欠かせないものなのだと思えました。

取材を終えた三人は、来春、大学生になって、地域のまちづくりに参加してみたいと話していました。

学生のみなさん。「まちづくりなんて」と構えずに、まずは地域の行事に参加してみませんか。そこで生まれる人の「環」が明日のまちづくりにつながることを信じて。

《取材を終えて》

校外での活動は初めてで、充実した取材が体験できました。地域と学生のつながりやそこでの苦労に驚きました。自分たちが取材した内容や感じたことを伝えられるよう努力しましたので、どうかじっくり読んでください。（望月雄太）

学生のパワーに圧倒されました。地域と一丸となって、まちづくりを進める姿を見て、自分の町内会でもこんな風に…とまではいかなくても、今後、少しでも地域のために何かができればと思いました。（宗石知樹）

3年間、新聞局として活動してきましたが、学校以外の活動は初めてで、新鮮でした。篠路高校でも、地域に少しでも貢献できるよう、小学校の通学路の見回り活動などを「篠高新聞」を通じて広めていきたいです。（道上悟至）